

令和6年 12月

■一般文学

「思い出の屑籠」

・著:佐藤 愛子

・出版者:中央公論新社

昨年 100 歳を迎えた著者が、幼少期から小学校時代まで、甲子園近くで暮らした頃の思い出を綴ったエッセイです。

時代は大正から昭和の初め、小説家を父にもつ著者が母や姉、異母兄やお手伝いさんなど大家族で暮らした日々が軽妙に描かれています。それぞれが個性あふれるキャラですが、なかでも「嘘ついたら死んでからエンマさまに舌抜かれるよ」と言う著者に、「それがそもそも嘘なんや」と言い放つ姉の達観にはほれほれします。

今は見かけない書生さんや乳母も登場し、戦前の暮らしを知るという観点からも興味深い、おすすめの作品です。

(対象 一般)

■一般書

「音楽を信じる」

・著:村井 邦彦

・出版者:日経 BP 日本経済新聞出版

著者の村井邦彦さんのお名前ピン! ときた人は、かなりの音楽通と言っていいかもしれません。合唱曲の定番となった赤い鳥の『翼をください』や、ショーケンこと萩原健一がボーカルだったテンプターズの『エメラルドの伝説』など数多くの作曲者として、また荒井由実を発掘したプロデューサーとして、そして伝説となったイエロー・マジック・オーケストラ(YMO)を世に送り出した人物としても知られています。

この本は、村井さんの 80 年に及ぶ半生、憧れのパリの思い出、忘れ得えぬ人たちとの出会い、もちろん YMO が世に出るまでの話など、盛りだくさんの内容となっています。

村井さんが師と仰いでいた川添浩史氏の足跡を辿った『モンパルナス 1934』もお勧めです。

(対象 一般)

■児童書

「一年一組せんせいあのね ～こどものつばやきセレクション～」

・選:鹿島 和夫

・絵:ヨシタケ シンスケ

・出版者:理論社

神戸の小学校の教員として主に一年生を担当した鹿島和夫先生。その鹿島先生は、日記ノート「あのね帳」を通して子どもたちが自分の気持ちを表現するという活動をしていました。「せんせいあのね」から始まる日記を書いたことのある人もいるかもしれませんね。あれから 40 年、昔も今も変わらない子どものつばやきを鹿島先生がセレクションし、ヨシタケシンスケさんが絶妙な絵をつけるコラボレーションが実現しました。

一年生の子どもたちが書いた詩の数々は、その素直な言葉にほわっとしたり、実は大人のことをよくみている鋭い視線にドキッとしたりします。子どもなら共感することも多いでしょうし、大人なら忘れた視点を思い出すことができるかもしれません。また、ヨシタケシンスケさんの絵がよりいっそう状況を補強しています。

(対象 小学低学年から)

■絵本

「コックのぼうしはしっている」

・作・絵:シゲタ サヤカ

・出版者:講談社

コックとぼうしの仁義なき戦いが、いざ始まる! まちでいちばん人気のレストランで、ウソつきのコックさんと本当の事を知っているぼうしとの激しい攻防の末に何が起きたのか…。

まあそんなに深刻な結末ではないのですが、自分にも思い当たるコトだらけのどこか憎めないウソつきコックさん、人間味のあるぼうし。見開きには「あ~こんなお客さんに出せないよ~」、そんな料理やお皿のオンパレード。日常においてズッコケ気味な自分がなぜか愛おしくなる、読み終わった後に細かい事がつかの間気にならなくなる、そんな気がします。

シゲタサヤカさんの絵本は他にも多数出版されています。表紙だけ見てもどれも楽しそうです。お気軽にお読み頂ければ…。

(対象 4 歳から)